

会 議 の 名 称	西東京市教育計画策定懇談会 (第6回)
開 催 日 時	平成30年5月1日(火) 午前9時30分から午前11時30分まで
開 催 場 所	西東京市役所防災センター講座室2
出 席 者	<p>【委員】 遠藤委員、服部委員、川村委員、三橋委員、田中委員、浅沼委員、本名委員、大橋委員、渡邊委員、石田委員、山村委員、伊藤委員、武藤委員</p> <p>【欠席委員】 なし</p> <p>【事務局】 木村教育長、森谷教育企画課長、等々力学校運営課長、名古屋教育部主幹(学校運営課)、内田教育指導課長、福田教育部主幹(教育指導課)兼統括指導主事、清水教育支援課長、掛谷社会教育課長、堀教育部主幹(社会教育課係長)、大橋公民館長、中川図書館長、宮本統括指導主事、和田企画調整係長、齋藤企画調整係主事</p> <p>【傍聴人】 0人</p>
議 事	<p>(1) 会議録の確認について</p> <p>(2) 昨年度の教育計画策定懇談会における検討結果を踏まえた新たな西東京市教育計画の骨子(案)</p> <p>(3) 新たな西東京市教育計画の方向性の抽出について(ブレインストーミング)</p> <p>(4) その他</p>
会 議 資 料	<p>資料1 西東京市教育計画策定懇談会第4回会議録(案)</p> <p>資料2 西東京市教育計画策定懇談会第5回会議録(案)</p> <p>資料3-1 西東京市教育計画の目次構成と基本的な考え方《スキーム》</p> <p>資料3-2 西東京市教育計画(平成31(2019)年度～平成35(2023)年度)</p> <p>資料4 西東京市教育計画(平成31(2019)年度～平成35(2023)年度)に向けた課題と方向性</p> <p>資料5 次期西東京市教育計画(平成31～平成35年度)の体系・骨子案</p> <p>資料6 新たな西東京市教育計画の方向性の抽出について～ブレインストーミングの実施(後半)～</p>
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(1) 会議録の確認について</p> <p>第4回、第5回懇談会の会議録について「修正なし」で了承を得た。</p> <p>(2) 昨年度の教育計画策定懇談会における検討結果を踏まえた新たな西東京市教育計画の骨子(案)</p> <p>事務局(委託業者)</p> <p>(資料3-1、資料3-2の説明)</p> <p>B委員</p> <p>計画改訂の背景と目的のところで、「国の中央教育審議会が第3期教育振興基本計画を公表した」とあり、答申内容あるいは計画内容と市における教育計画の関連性はどのようなものなのか。</p>	

事務局

国の計画が一番大きな計画であり、そこを受けて東京都の計画、教育ビジョンがある。国・都の流れを見据えて西東京市の計画を策定している。

事務局（委託業者）

資料4で説明するが、現行の取り組みから見られる課題や、国の方向性を踏まえて新たに課題を打ち出し、この課題を受けて次期計画の方向性を出すため、これまでの西東京市の課題も踏まえた次期計画に向けた課題となっている。

G委員

基本方針1の「生きる力の育成に向けて」の中に「確かな学力の育成」があるが、現状として、かなり学力に差があるように感じている。学力の低い子どもたちへのフォローは、基本は学校で行い、基礎学力を付けることに力を入れていかなければいけないということを実感している。もれなく、全ての子どもの学力向上を目指すということを次期教育計画に入れていきたい。

事務局（委託業者）

（資料4、資料5の説明）

E委員

例えば「学校を楽しいと思う児童の割合が9割である」とか、「教職員の能力向上が必要だと思う」ということは、現在の計画にも書かれている。

前回も出ていて今回も出ているということは、さらに悪くなっていると捉えることもできる。現在の計画を一度白紙に戻して新たな計画をつくるような印象を受けたので、現在の計画にあげている内容も踏まえて考える必要がある。

座長

課題によっては5年間で解決するということが難しいものもあるので、「引き続き課題解決に向けてこんな方向でいく」という表し方が必要になると思う。

I委員

資料4の1ページ目「新しい都の方向性」の3点目「教員加配の効果が見られる一方、依然として不適応状況が発生」の意味について、2ページ目「新しい都の方向性」の3点目「校種が上がるに連れ、学習の理解度は低下」について、資料4の3ページ目「ヒアリング調査結果」の「今後、「合理的配慮」という言葉を使う保護者が多くなる」の「合理的配慮」の意味について確認したい。

また、5ページ目「事業実施からみられる課題」の一番下、「健康医療情報、法律情報など」の「利用者参加型の図書館PRについて」は、図書館に関する事なのか。

事務局

「教員加配」は様々な条件で実施されている。小学校においては、主に算数で習熟度別少人数学級を実施している。「教員加配の効果が見られる」とは、習熟度別少人数学級において一定の効果が見られるとのことだと考えられる。一方、「依然として不適応状況」とは、効果が見られない部分もあるのではないかと。

「校種が上がるに連れ、学習の理解度は低下」は、「小学校教育の現状」の括りでは「校種」の言葉は適切ではないと思う。おそらく東京都や全国でやっている学習状況調査等の結果を踏まえ、中学、高校へと上がったときの状況から見た言葉ではないかと。

事務局

学校における「合理的配慮」とは、障がいのある子どもが他の子どもと平等に教育を受ける権利を共有するために、教育委員会及び学校が状況に応じて個別に必要な変更や調整を、体制面や財政面において均衡を失すること無く、また過度の負担が無いように取り組むものという定義となっている。

事務局

図書館の年間利用状況は横ばい状態で、とくに若い人たちの登録率が少し下がっている。図書館は個人利用が主となっており、今までの行政主体のPRではなく、利用者の声を通して広報していく新しい方法が有効ではないかということで、課題に挙げた。

(3) 新たな西東京市教育計画の方向性の抽出について（ブレインストーミング）

(3グループに分かれてブレインストーミングを行い、その後発表を行った。)

1 グループ

3つのタイトルにまとまった。

1つ目のタイトルが「キャリア、生き方教育」で、「自己の生き方を確かなものにする」、「キャリア教育 職業ではなく何をしたいのか」、「子どもの自己肯定感を育てる」、「子どもたちと大人モデルの接点」というキーワードが出た。

子どもたちが将来就きたい職業を選ぶ過程を大切にしたいという意見があった。

次のタイトルが「あらゆる人が教育に関心をもつ」で、「学校・行政との連携」、「家庭と地域の子育て力の向上」、「親子の支援 子だけでなく家庭も」、「部活動と地域の協働」、「必要な人に必要な情報を届ける」というキーワードが出た。

次に「「ゆとり」がある教育体制」というタイトルで、「勉強は学校で教えてもらえる。わからないところを先生に聞ける体制」「保護者と先生のコミュニケーションのためのゆとりが必要」というキーワードが出た。先生だけでなく保護者も含めてゆとりが生まれることによって、子どもたちへの教育が充実していくのではないかと、保護者と先生のコミュニケーションがより密なものになるのではないかと意見が出た。

2 グループ

学校教育という視点でのキーワードは「言語力」であった。教科書が読める、分かるようにする、物語ばかりでなく難しい本を読む機会や、調べ学習で本（紙資料）をつかう機会を増やすことで言語力を向上させたいという意見が出た。

他には「道徳教育の充実」ということで、教科書だけではなく、体験する機会を設けることも重要だという意見が出た。

「健康教育の充実」としては、子どもたちの心身の健康について、健康教育をいかに充実していくか、また、「特別支援教育」については、配慮が必要な子どもをいかに支援していくか、通常の学級の中で配慮が必要な子をどこまでケアできるかということも大切なことだという意見が出た。

「自治力の育成と活用」というキーワードにおいては、「自治力」とは、「キャリア教育 自己理解 他者理解」、「目的意識 どのように生きるのか 夢・志を感じる・考える機会」ということで、自分たちの考えで判断し行動する、責任を取れるという力の育成ではないかという意見があった。ただ、教育現場の意見としては、教科をこなすだけで精一杯の状況で、このようなことをどうやって入れていくかが課題であると考えている。

家庭教育については、「家庭教育力」というキーワードで、「就学前で見る聴く力を」、「親自身がよく聴く」、「保護者の教育 聴く力 受け入れる力 育てる力 カウンセリング」や、「学校における家庭教育の充実 講座の開設」も必要だという意見が出た。

他に「意味のない空間の確保」というキーワードでは、コミュニティスペースとして、今の放課後の居場所づくりは、実施者が用意をした場だが、そうではない場所があってもいいのではないかという逆の発想をしている。

「おせっかいのすすめ」として、下町的な感覚で保護者や子どもたちに対して働きかけることができるのではないかという意見があった。

「生涯学習」については、リタイヤされた方々がどんな活動ができるかという情報を提供してもらい必要があるのではないか、という意見が出た。他のキーワードとしては「多様な人材の学校教育への活用」、「大人のためのブッククラブ」などがあがった。

3 グループ

学校教育についてのキーワードは、「先生の環境として教職員の先生方のカウンセリングが必要ではないか」、「自ら学び考え行動する 質問の仕方の教育」という意見が出た。

他に、「複数で情報を共有し検討する時間の確保(足し算的なニーズで増加する一方)」、「キャリア教育 なぜ学ぶのか 教育の大切さ、目的こそ時間が必要」、「確かな学力の育成 すべての子どもたちに基礎・基本の学力の習得を」という意見もあった。

国の「夢と自信を持つ」という目標が良いので、西東京市の教育計画にも入ると良いという意見や、特別支援教育に関しては、「学校教育の全体を通して個別の支援を充実」というキーワードで、特別支援教育だけの課題として捉えるのではなく、教育全体の課題として捉えることが必要だという意見が出た。

教員の事務仕事を削減すべきということと、例えば医療従事者が常駐すると良いのではないかという意見も出た。

家庭教育支援について、家庭が学校教育に参画するという面では、「支える」というニュアンスがないと、学校に重荷を課すだけになってしまうのではないかという意見が出され、「家庭が学校を支える」ということが強調されると良いという意見が出た。

「学童保育と学校の連携」をさらに深めて個別の支援の充実を図っていく、また、「子どもの家庭支援の充実」では、スクールソーシャルワーカーを活用することで、福祉の視点も含めて取り組んでいくことが大切だという意見もあった。

また、「家庭に入ることの大事さ」として、家庭は居場所の一つであるはずなのに、居場所になっていない家庭があるという現実もあり、家庭が居場所の一つとして充実していくことも大事かと思う。

生涯学習については、「ITの活用」、「世代を越えた多様な学び」という意見が出た。ITについては若い人が得意で、高齢者は苦手というのが主流だと思う。例えば世代を越えたメンバーで生涯学習を行うと、若い人が高齢者に教える機会ができる。教えることで若い人が高齢者から褒められると、自己肯定感が上がることが期待されるし、世代間交流もできるのではないかと考える。

(4) その他

次回の日程は6月22日に開催

以上